

八幡神社

2024. 4. 22

日本には、至る所にお寺や神社がある。その地域ごとに、神社がある。八幡神社というものがある。これだけでは、どこにあるかがわからない。調べてみた。日本には、八百万の神という概念がある。全国には、様々な神々をまつる神社がある。その中で最も多いのが、八幡神社であるらしい。全国に約44000社ある。

この前、家人が八幡神社に行かなければならないという。八幡神社と言われても、ピンとこない。梁川にもあった。飯坂にもある。住所から検索し、ようやく場所がわかった。行ってみた。確かに神社があった。人が集まっている。子どももいる。どうやら、春の例大祭らしかった。駐車場にはキッチンカーが出ていた。山車もある。その山車が動き出した。これは、立派なお祭りである。

自分のことを思い出した。私が生まれ育った土地にもお祭りがあった。鷲神社のお祭りだった。鷲神社と言っていたが、それが正式な名前かどうかはわからない。山車が、2台あった。上(かみ)と下(しも)である。この山車を引いて歩くのが楽しかった。

今でも覚えている。「上の屋台は、ぼっこれ屋台」と、みんなで大声を出しながら歩いた。今考えると、ひどい。あの頃は、何とも思わなかった。大人も、何も言わなかった。だからといって、上の子どもたちと仲がわるかったわけではない。お祭りの日だけの話である。上と下の対抗戦ゆえそうなるのだろう。

子どもにとって、地域のお祭りは、一大行事である。お祭りというだけで、ワクワクしてくる。自分たちの出番もある。ちょっとしたヒーロー気分、主役になったつもりになれる。

家人が出かけた八幡神社もそうだが、お祭りには必要な要素がある。その地域をまとめる存在の方々、お祭りを取り仕切るの方々、そして子どもたちである。小さな子どもから小学生くらいまでの子どもがいないと、お祭りはさびしいものとなる。

イタリアから帰ってきて、まだアパートに住んでいるときだった。何気なく外を歩いていると、神社に人が集まっている。何だかにぎやかである。どうやらお祭りらしい。こうなると、行ってみたくなる。子どもは大喜びである。

時代は変わっても、お祭りの重要性、必要性は変わらない。いつの間にか、こども会というものがなくなってしまった。だが、その地域でお祭りがあると、子どもたちは集まってくる。お祭りが、その地域の人と人とを結びつけている。お祭りが続いているのは、それを運営している方々の努力があるからである。今の世の中だからこそ、ありがたい。

八幡神社だけでも、このような結びつきが、全国に44000もあることになる。そう考えると、日本におけるお寺や神社の存在は大きいと言わざるを得ない。鷲神社のお祭りは、今でも続いているのだろうか。今度、実家の母に聞いてみようと思う。まさか、「上の屋台は」などとは言っていないとは思わなかった。